

ことばのうみ

kotoba-no-umi



原風景

とよた かずひこ

「この海を描いても、どうしても日本海がでてきてしまう……」
新潟生まれの絵本画家が、僕にそう語ってくれたことがある。

四年前に出版した拙著『くじらへび・らいおん』という絵本に「……海は青ではなく緑色でもいいんだなと思いました」という読者カードをいただいた。そうか、そういうことなのか。

小学生の頃、父に連れられて、よく関上港や蒲生海岸へハゼ釣りに出かけた。そこで日がな一日見ていた海の色——ちよつとよんだ緑色——それが僕にとってのすべての海の色だったのだ。

この歳になつてくると原風景がよみがえる。もし、図書館内を描く必要にせまられたら、まず東大小学校の木造校舎の一隅にあったささやかな書棚風景が目前に出てくるだろう。

東京が遠くあこがれの街であった頃、たつぷりの時間の中を仙台で暮らせたことをとてもありがたく思う。

(絵本作家)

